



## 新年度に向けて新たな一歩を

### ◆ 2024年を終えるにあたって

2024年は、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震により、多くの方々が被災し、大変な困難に直面した年でした。一方、メジャーリーグでは、大谷翔平選手が史上初となる50本塁打50盗塁を達成し、新たな可能性と希望を私たちに示してくれました。受験生である3年生は、新たな時代を切り拓く存在となることを信じ、飛躍の年となることを切に願います。

### ◆ 新たな決意で刻む未来への一歩に

古来、人間は一方的な時の流れに暦（こよみ）で区切りをつけ、「未来に備えるための時間」としての意義を宿してきました。1年の計は元旦にありと言うように、清廉な年の初めは心新たにスタートする絶好の機会です。

1年生の皆さんにとって、今年の大きな出来事は高校入学であったかもしれません。昨年の今頃は中学校の懇談会で高校入試を話題とし、3月には入学試験に挑みました。そうして自分の意志と努力で勝ち取った本校への合格は、皆さんに自信を与え大きく成長させました。入学後は、探究学習、模擬試験、文理選択など多様な学習が本格化し、今年度は残り3ヶ月を迎えています。いま、2年生となる新年度を前に、ここで高校入学当初の期待や抱負を思い起こし、あらたな決意で新年を迎えましょう。

2年生の皆さんにとって最終学年となる新年は、誰にとってもさまざまな労苦が待ち受けています。課外活動をはじめ、生徒会活動、そして教科学習は大詰めを迎えます。自分の人生の方向を自分の責任で決めていく、とりわけ重要な1年間がはじまります。皆さん一人ひとりのもつ感受性と理想とを胸に、たくましく歩むことを願っています。

### ◆ 12/27（金）～1/6（月）冬季休業【11日間】

まず、まとまった休業でしっかりと心と体を休め、新年の英気を養いましょう。そこから生まれた活力を、学力の回復と伸長に活用しましょう。三者懇談や11月模擬試験の結果から、自分がいま取り組むべき教科・分野などを考えてみましょう。

#### 【冬休みの過ごし方のポイント】

- ・2年生は国語・数学・英語の総復習をスタートする。
- ・1年生は国語・数学・英語の苦手科目に時間をかけて取り組む。
- ・実力テスト、記述模試を目標に学習計画を立てる。
- ・課題は年内に終わらせ、苦手分野の学習を集中的に行う。
- ・規則正しい生活を心がけ、自己管理を徹底する。



#### 保護者の皆様へ

懇談会へのご来校、ありがとうございました。大きな期待を胸に本校へ入学した生徒たち、その進路実現に向けて私たち教職員も精一杯努力して参ります。今後とも、保護者の皆さまにはご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。どうぞよいお年をお迎えください。

## 1月の目標

共通	土曜日・日曜日の学習室を利用して考査、模試の準備をする
1年生	清廉な心持ちで目標を定め、新しい年をスタートする
2年生	共通テスト試験まであと1年！3年ゼロ学期を邁進しよう

### ◆始業式・実力テスト…1/7（火）8（水）

実力テストで気持ちの良い1年のスタートを切りましょう。

なお、1月4日（土）～6日（月）8:30～17:00は自習室使用可能です。

各学年の案内に従い、新年のスタートを学校で学習しよう！

### ◆サタデーセミナー…1/11（土）内容は各学年から連絡あります。

### ◆大学入学共通テスト試験…1/18（土）19（日）

本校3年生220名が、全国では約49.5万人（下表）が受験します。「共通テスト試験」は今回で5年目を迎え、国公立大の一般入試受験者（一部受験必須の私立大あり）は必ず受けなければならない試験であり、推薦や総合型選抜でも受験が必要な場合もあります。また、私大でもほぼ9割近い大学が共通テストの成績を利用した入試を行っているため、大学入試一般受験の受験生ほぼ全員が受験する国内最大のテストということになります。翌20日には自己採点を行い、全国動向を見ながら国公立大学の出願校を決定します。いよいよ本格的な受験シーズンのスタートです。

#### 【令和7年度大学入学共通テストの志願者数】

○志願者数 495,171人 対前年度比 3,257人増

志願者は7年ぶりに増加。現役志願率も45.5%と過去最高に。

高等学校卒業見込者（現役生）	425,968人（86.0%）
高等学校卒業業者（既卒・浪人生）	64,974人（13.1%）

### ◆進研記述模試…1/18（土）

配布済みの合格ラインで志望校の平均SS・目標得点を確認しておこう。大学・短大進学を目指す、全国約45万人が受験する全国最大規模の模擬試験です。

### ◆2学年共通テスト体験…1/20（月）

2年生は今回の共通テスト試験問題（英数国3教科）にチャレンジします。この3教科の出題範囲の多くは高校1、2年生で履修済みですから、今回の目標得点率は50～60%としましょう。自分の現時点での実力を知り、これからの対策を練りましょう。大丈夫、いまならまだ1年間あります。

## 今月の3年生

全国模試をすべて終え、共通テスト試験まで約3週間！特編授業の成果が徐々に表れてきました。当日に向けた最終調整の時期、復習を中心とした最後の総仕上げに励んでいます。1・2年生のみなさんは、引き続き休み時間の移動などで協力をお願いします。全力の3年生に、全校を挙げてエールを送りましょう！

やる気スイッチ



1月	
1水	○ 元日 閉庁日
2木	○ 閉庁日
3金	○ 閉庁日
4土	○ ※
5日	○ ※
6月	○ 校内共テ模試[3] ※
7火	▲ 始業式・実力テスト 校内共テ模試[3]
8水	▲ 実力テスト
9木	SC
10金	
11土	○ サタセミ[1・2] ※
12日	○ ※
13月	○ ※
14火	
15水	A
16木	SC
17金	
18土	○ 大学入学共通テスト 進研記述模試[1・2] ※
19日	○ 大学入学共通テスト ※
20月	自己採点[3] 共通テスト体験[2]
21火	
22水	
23木	A SC
24金	
25土	○ 小論文模試[3] ※
26日	○ ※
27月	
28火	
29水	
30木	P SC
31金	

※印は自習室開放日

# 大学入学共通テストとは

共通テストは、2021年度からセンター試験に代わって実施されている試験で、その主な目的は、高校生としての基礎学力の到達度を測るだけでなく、思考力・判断力・表現力など、多面的な能力を評価する点にあります。国公立大学の一般選抜では必須であり、私立大学でも共通テストの成績を利用する方式を採用する学校が多いため、志望校を問わず共通テスト対策が重要です。

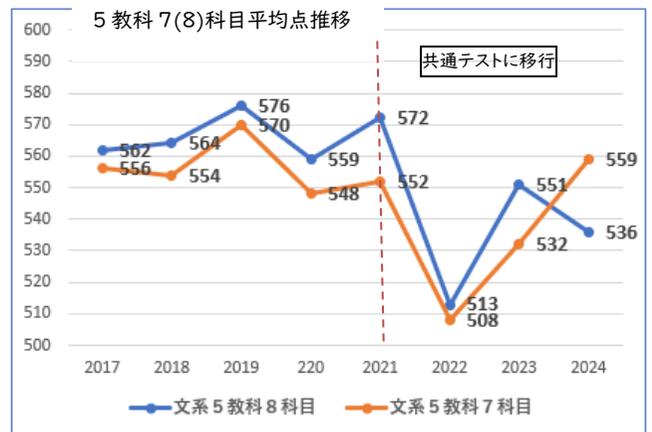
## ○ 2024年の共通テストの出題傾向の特徴は

### ◆読解力重視！高速の情報処理能力が問われる

共通テスト導入以降、教科や科目に関係なく、知識の暗記よりも知識を駆使して複雑な問題に迅速に対応する能力が求められています。さらに、複数資料や図表・グラフの活用、思考力・判断力、読解力が強調され、情報処理速度も要求されています。そして、共通テストでは問題文がより長文化し、対話文形式の問題も増加しており、これが顕著な傾向となっています。

### ◆共通テストの難易度が安定化！2024年各教科平均点の動向

今年で4回目となる大学入学共通テストは、センター試験から移行して以来、大きな出題傾向の変化はなく、5教科平均点にも大きな変動は見られませんでした。予想平均点は文系（5教科8科目）で**536点**（前年比+4点）、理系（5教科7科目）で**559点**（前年比+8点）と上昇しました。特に、国語や生物基礎、生物での平均点アップが顕著で、同一教科内の得点差が小さくなったことが特徴です。英語リーディングの平均点は51.5点（前年比-2.3点）で、単語数や問題量の増加により解き切れない受験生が多かったものの、全体の難易度は例年通りでした。一方、リスニングは解きやすい問題が多く、平均点が67.2点（前年比+4.9点）と上昇し、英語全体の平均点はわずかに上昇しました。国語では、平均点が116.5点（前年比+10.8点）と大幅に上がり、特に現代文が「解きやすかった」という声が多く聞かれました。この国語の得点アップが、共通テスト全体の平均点上昇につながったと考えられます。一方、数学では平均点が下落。数学Ⅰ・Aは51.4点（前年比-4.3点）、数学Ⅱ・Bは57.7点（前年比-3.7点）と、いずれも難化の傾向が見られました。



## ○ 来年度以降受験する1,2年生へ

来年度以降に受験を控えている生徒は、ぜひ日ごろの授業の予習復習をおこたらず、まずは基礎を固めるようにしてください。今年度の出題傾向を見てもわかるとおり、共通テストでは身に付けた知識を実際に活用できるかどうか重視されます。そのため、まず学校の授業で習う知識をしっかりと定着させ、そしてその知識を使えるようにすることが重要です。

共通テストの対策に近道はありません。諦めずにコツコツと勉強を積み重ねることこそが、結果を出す唯一の方法です。このことを忘れずに、日ごろの学校の勉強に真摯に取り組みましょう。

## タイパ重視は効率的？

一つ危惧していることがあります。「効率」を求める機運が高まりすぎていることです。この機運は高校の中においては、次のような側面から見てとれます。「早く答えを教えてください」「早く点数をとれる方法を教えてください」「どうすればもっと短時間で勉強できますか」。こうした質問をうけることが年々増えてきたように思うのです。

タイムパフォーマンスという言葉が市民権をえるような世の中になってきていますから時代の要請としても「効率」重視も仕方ないところがあります。しかし、です。表面上のタイパだけめざした行為は本当に「効率的」なのでしょうか。私はこの点にずっと疑念を抱いてきました。

最近、読んだ本の一節にハッとさせられるものがありました。以下はスピノザという哲学者の考えを紹介する形で述べられたものです。

私たちは何かを理解することがある。「分かった!」と思えるときがある。そのとき、もちろんその対象のことを理解したわけである。たとえば、数学の公式の説明を受けてそのような感覚を得たのなら、その公式を理解できたわけである。

しかしそれだけではない。人は何かが分かったとき、自分にとって分かるとはどういうことを理解する。「これが分かるということなのか……………」という実感を得る。

人はそれぞれ物事を理解する順序や速度が違う。同じことを同じように説明しても、だれしもが同じことを同じように理解できるわけではない。だから人は、さまざまなものを理解していくために、自分なりの理解の仕方を見つけていかなければならない。

(中略) 逆に、こうした過程の重要性を無視したとき、人は与えられた情報の単なる奴隷になってしまう。こうしなければならないからこうするということになってしまう。たとえば、数学の公式の内容や背景を理解せず、これに数値をあてはめればいっただけ思っていたら、その人はその公式の奴隷である。そうすると、「分かった!」という感覚をいつまでもたっても獲得できない。したがって、理解する術も、生きる術も得られない。ただ言われたことを言われたようにすることしかできなくなってしまう。

(pp. 391-392. 國分功一郎(2022)『暇と退屈の倫理学』新潮文庫)

高校の中にみられる「効率重視」の動きは、まさにココに述べられる「情報の奴隷」そのものだと思うわけです。点数だけを求め「自分にとってわかるとは何か」を置き去りにしては、こうやったら自分はわかる、という自走する学びを実践できないのですから、結果「効率よく」学べるわけがないのです。

とはいえ、です。3年生の12月ころに至ってはそんなことは言っていられません。2年生は1年後、1年生は2年後です。そのころには、点数をあげるためにどうするかを重視せざるを得ません。だれだって合格は欲しいのですから。つまり、「自分にとってわかる」を獲得するのは「今」しかないのです。

受験生として、将来的には、学生として、社会人として、市民として本当の意味で効率よくものごとを進めていくためにも、「自分にとってわかる」を得るべく、今は表面的なタイパをいったん横において、「時に回り道をしながら立ち止まってゆっくりわかるまで」をぜひ実践してみてください。